

～タイトル～

高校 2 年生が参加するみらいの教員育成プログラム「教員基礎」が始まりました。

～本文～

北海道教育大学では、高等学校段階から教員の仕事を理解し、教員になるための素養を高めるとともに意欲の高揚を図る「みらいの教員育成プログラム（前半：『教員基礎』、後半『教員基礎探究』）」を北海道教育委員会と連携して実施しています。

2024 年度の「教員基礎」は、釧路江南高等学校の 2 年生 7 名、釧路湖陵高等学校の 2 年生 13 名、中標津高等学校の 2 年生 1 名がプログラムに参加しています。9 月 21 日（土）に第 1 回「オリエンテーション」が行われましたのでご報告します。詳細は、以下の PDF 版記事をご覧ください。



第 1 回は、「教員基礎」のオリエンテーションを実施しました。

1 時間目は、冒頭に越川キャンパス長から、受講生のみなさんに「教員基礎」への期待を寄せました（写真 1）。その後、担当教員の自己紹介、受講生の自己紹介を行いました。自己紹介では、出身中学校や本プログラムを受講した動機等も含めて紹介しました。「担任の先生の影響で教師を目指しているから」、「子供たちと関わりたいから」、「社会、英語等の教師になりたいから」、「先生方の仕事について知りたいから」等、それぞれの受講理由を聞くことができました（写真 2）。

最初の説明「プログラムの概要」では、「みらいの教員育成プログラム」の目的や全体像、受講している「教員基礎」の目的や位置づけ等について説明しました（写真 3 上段）。

演習 1 「小学校・中学校時代の楽しかった思い出を振り返ってみよう」では、小学校や中学校の頃の楽しかった思い出、印象に残っている出来事を交流しました。社会見学や修学旅行、給食時間や休み時間の交流、少年団・部活など、それぞれが楽しかった出来事を発表していました。友達との関わりが印象に残っていることが話の中から伝わってきました。交流後には、その楽しかったことが学校の教育課程の何に含まれるのかを伝え、整理を行いました（写真 3 下段）。

演習 2 「小学校や中学校の教員の仕事には、何があるかを思い出してみよう」では、小学校や中学校の先生方がどのような仕事をしているのか、これまでの経験を基に考えました。授業の準備、テストの作成、子供たちに問題があったときの対応、保護者への対応、お便りの作成、研究会への参加、教育実習生の指導（よく見て覚えてますね）など、色々な側面から仕事が出されました。交流後には、これらの仕事を授業に関する事、生徒指導に関する事、学級経営に関する事などと、整理を行いました（写真 4）。

演習 3 「『教員基礎』を通して、自分が追究したい課題を設定しよう」では、演習 1 や 2 を通した、これまでの経験や教職に関する振り返りを踏まえて、「教員基礎」を通して、自分が追究していきたい課題を設定しました。学習指導や子供とのかかわりに関する課題など、一人一人の受講動機とも関連する課題が出されていました。

演習 4 「学校実習 1 の目標設定」では、阿寒湖義務教育学校の概要や次回の学校実習 1 「阿寒湖義務教育学校」の内容について説明し、それらを踏まえて、学校実習の目標（見てきたいこと、聞いてきた

いこと、してきたいこと)を設定しました。次回の学校実習Ⅰでは、この目標を意識して参加してほしいと思います。

全体を通して、活動やグループでの交流に意欲的に取り組んでいる姿がみられました。目的意識をもって参加している生徒のみなさんの今後の取り組みに、大きな期待がもてました。次回の学校実習での取り組みも楽しみにしています。



写真1



写真2



写真3

